

# J O M A 通信

Japan Overseas Missions Association

## 海外宣教連絡協力会公報

No.43 発行者/ 森 正義  
海外宣教連絡協力会事務局  
東京都千代田区神田駿河台2-1  
OCCビル 一 PBA事務局内  
〒101/ TEL.03-3295-4921

JOMA宣教セミナー・分科会（1994/4）発題

## 「宣教師の健康管理」

牧 野 直 之 (OMF)

日本の福音派の教会から送り出された宣教師が活躍し始めたのは、1960年代である。宣教師派遣、海外宣教の機運がたかまってきたのは、まだ敗戦の痛手が残っていた 50 年代の半ばからと私は理解している。その取り組みの動機付けは、イムマヌエル綜合伝道団をのぞいては、その当時の大多数をしめていたアメリカからの宣教師たちの影響から、個人主義的なものが主であったようである。即ち、松元先生が台湾の宣教に、森本先生がタイの宣教に、尾崎先生がエクアドルの HCJB で日本語放送伝道にと、個人的に神様の召し・導きを受け、後からその方々を支援するグループ・団体が形成されていった。“支援会・〇〇宣教師を支える会”という名前が示しているように、宣教会が送り出すというより、ある方が宣教師として海外に行かれるので、友人・知人として支えてゆこうという比較的軽い気持ちとか、友好団体のような感じだったと私は理解している。それゆえ、ともすると教会の海外宣教への取り組みは受身的で、今日、話題にする宣教師として出掛けていった方々の健康管理のことなどは、全然考えられていなかったと言っても過言ではない。

ところが、実際に日本からの宣教師が外国に行き、それも日系人伝道ではなく、いわゆる E 3 の異文化の人々に伝道し始めると、宣教師たちは様々な問題に直面した。特に、松元先生のご病気、その後の逝去、森本（先生）夫人の出産、奥山先生のご病気などは、宣教師の健康管理と、送り出し側の責任ということをクローズ・アップした。更その後、異文化への宣教師の不適應、いわゆる、カルチャー・ショックの問題も出てきて、当事者とその

関連の諸教会で対症療法的に、必要に応じて討議された。しかし、この文化不適應、また、不適應からくる精神的な病については、宣教師本人も含めて、日本人（クリスチャン）の間に根強い偏見と誤解、更に、恥という考え方がある。このために各自の正確な資料を提供し合って、今後の対策、予防、などをしてゆくの困難であった。他の病気でも同様のことがあり、病気のゆえに宣教地を離れる、帰国するということが、あたかも失敗であるようにとられ、そのような宣教師は宣教師失格ととられるような雰囲気を感じたのは私だけではないであろう。

しかし、世界歴史上まれにみる平和な時代を迎え、宣教の絶好期、宣教活動がますます自由に行われ得る時代になった。その上、交通手段と通信手段が著しく進んだだけでなく、医療科学技術の進歩、宣教地における医療設備の充実を見た今、私たちは今後の海外宣教を考えてゆく時、宣教師の健康管理と資質（体質）ということをもっと深く考え、具体的に対処していかなければならないであろう。

### 1) OMFの現状

まず初めに、私が属している OMF の健康管理に対する態勢をご紹介します。まず OMF に志願する方は、今お配りしたような「書類」「質問」に答えて頂く。その後、指定の健康診断を受けて頂き、その結果を国際本部にいる医療アドバイザーに知らせる。日本でもそうだが、各国に OMF でお願いして指定医（東南アジアの状況をよく知っておられる方）をもち、その医師に志願者の健康診断をし

て頂く（体重制限などもある。）国際本部にいる医療アドバイザーが許可した段階で、OMFにメンバーとして受け入れられることになる。

宣教師になると、まず出国前に必要な予防接種などを義務づけている。本国で接種困難なものは、シンガポールの国際本部です。全ての宣教師は原則として、シンガポールの国際本部に研修のために集まり、そこで医療アドバイザーによる健康診断を受ける。また、宣教師として働く場合の健康管理ABCを各宣教地の状況に応じて学ぶ。健康診断の記録（カルテ）は、一部を医療アドバイザーが、一部を本人が保管する。

その後、2年に一度、各宣教地で健康診断を受けることが義務づけられている。また、一時帰国中には、必ず指定医による健康診断を受ける。

各人のメディカル・ヒストリー（病歴）などは秘密事項で、国際医療アドバイザーと医療関係者の間で秘密厳守している。

## 2) 宣教師と病気

初めに、統計が古いことと、不十分であることをご容赦してほしい。

1983年の統計によると、39の福音的な宣教団対の調査結果によると、毎年宣教師の5.5%（人）が辞任しているそうです。辞任には様々な理由があるが、牧会的配慮の不足（欠乏）から来るストレスや精神的疲労がかなり大きな比率をしめている。OMF内で一番辞任者が多い宣教地はフィリピンで7.1%（過去5年）、次にインドネシア6%、タイ5.8%、台湾2.7%、日本2.3%となっている。このように、フィリピン、インドネシア、タイの東南アジア諸国にいる宣教師の辞任率は、台湾や日本など北東アジア諸国にいる宣教師よりずっと高いという結果になっている。残念なことに正確な統計的数字を得ていないが、この高い数字の裏には、①貧困社会の中で生活するストレス、②火山の噴火、地震、洪水、台風など自然災害から来るストレス ③政治・治安の不安から来るストレス ④イスラム教のように攻撃的（挑戦的）な宗教反発の中にあるストレス等がある。

現実には、ガンとか結核とか、マラリヤ、

脳血栓、とかいうような病気で宣教師生活を続けられなくなる人もいるが、よっぽど原始的な社会に入って行かない限り（ウイクリフなどは今でもそういう処に行くが）現在ではかなり医療設備がよくなっているので、本国に戻ることなく、宣教地内で治療することができる。特に熱帯病などの場合は、現地のほうが経験豊富な医師がおり、薬なども手に入れ易いこともあるようである。

こう考えて来ると、宣教師の病気、あるいは病気予防で一番クローズ・アップされてくるのが「ストレス」である。これは私の誤解かもしれないが（そうであってほしい）、日本の福音的な教会の中には、宣教師を祈りと献金をもって送り出したのだから、宣教師は信仰をもってやって行かなければならない。ストレスなんて、ただ信仰で乗り切れる、といった考えがあるようである。それゆえ、宣教師を送り出しても、その宣教師の牧会的配慮、ケアということは未だほとんど考えていない宣教団体や教会が多いのではなかろうか。たまには宣教師問安ということがなされている。この「問安」というのはくせ者で、しばしば問安という名のついた牧師海外ツアーであったりして、「問安」された宣教師は、牧師先生を観光案内するのに大変で、問安者が帰られたら一週間寝込むなんていうことにもなりかねない。こんなことを私はかって耳にしたことがある。

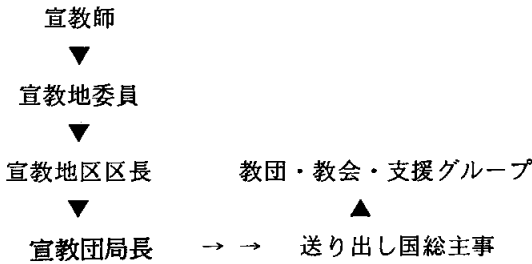
## 3) 医療費

日本は社会健康保険や国民健康保険があるが、外国にはこのような強制保険はほとんどない。そこで宣教師は各宣教地で一番良い医療保険に入るのが得策であろう。日本の保険で海外での医療もカバーするものもある。しかし、異文化間の条件項目の理解の相違などが、当然のことながらでてくることを考慮に入れておくべきである。

## 4) 宣教師のケア

OMFではケアをどのようにしているか参考までに述べてみよう。OMFは現地主義の原則にたっている。宣教師のケアは宣教師の働いている

現地の宣教師リーダーが責任を持ち、送り出し側は現地の責任者と連携していく。



現地では上の図に示したような形でケアする体制を取っている。即ち、4-5名の現地宣教師によって構成されている宣教地委員会は、その宣教地で働いている宣教師の働き、健康などのケアをする。万一宣教師が体調を崩したり、本人は気付いていなくてもストレスが溜まっていることに気付いたら、委員会の責任者、地区長がカウンセリングをする。宣教地区々長は、委員会のアドバイスを受けながら、その地区にいる宣教師たちの牧会をするのである。深刻な状況の場合には、更に、宣教団局長と相談し、局長は、送り出し国の総主事に報告をするということになる。

宣教師が、自分の母教会や支援グループに助けを求めたり、訴える場合、むずかしいことは、送り出した教団・教会・支援グループは現地の状況を的確に把握できない上、宣教地の文化も分からないことである。当然のこととして、日本の状況の下、日本での経験を下に、訴えられた問題を判断し、アドバイスをせざるを得ない。このようなアドバイスは隔靴搔痒となる。

現在、ウイクリフに属する宣教師は6千人以上いるが、これらの宣教師をケアするために医師6人、カウンセラー20人で診るだけでなく、プロのカウンセラー13人の助けも得ている。ウイクリフは10年前には、牧会カウンセリング部門を開き、宣教師たちがそこで訓練・研修を受けるようにもしている。

5) 日本の宣教団体の課題

日本の福音派の諸教会が成長し、多くの教会や教団が主イエスの大宣教命令を忠実に実行していこうと、世界宣教に真剣に取り組んでいるのは素晴らしいことである。しかし、過去の日本人宣教師の先駆者たちの経験や、他国の宣教師や、西欧の長い歴史をもった宣教団体のあり方からも分かるように、一人の宣教師を異文化宣教地に送ることは大事業である。ただ祈りと財政的援助だけすればよいのではない。宣教地の文化、教会の把握、と共に、宣教師の健康管理をも考えていかなければならない。つまり、一人の宣教師が伝道の第一線で働くためには、その何倍もの人々が縁の下の力持ちのように、宣教地で働かなければならないのである。伝道の第一線で働く宣教師をサポートする働きをする宣教師をもっと派遣することも考えなければならない。

更に、JOMAなどで、専門家を招いて、異文化ストレスのセミナーや、宣教諸団体が協力して日本人クリスチャンの精神科医を巡回派遣して、宣教師たちのケアをして行くのもよいであろう。

「アジア人の宣教師は10年くらいしかもたない」という定評を打ち破るように、現地の人に喜ばれ、健康で長期にわたって働く宣教師が多く起こされるのを祈ってやまない。

以上

皆さんの教会の掲示板に



**JOMA 世界宣教地図**

は、掲げてありますか。

¥200円/一枚

注文は：JOMA事務局

101 東京都千代田区神田駿河台

2-1, OCCビル内

PBA気付

TEL. 03-3295-4921

宣 教 と ミ ッ シ ョ ン



リーベンゼラ世界宣教会

I 現在の宣教師派遣状況

- 近藤 泉・美貴子夫妻  
(日本福音キリスト教会連合本郷台キリスト教会)
- ・ アメリカ・NY、チャパカ福音キリスト教会、邦人伝道として1990年 5月渡米。1991年 4月より礼拝開始。
- ・ 1994年 6月ー 7月、帰国巡回報告(ビザの関係で短期滞在)。
- ・ 1994年 7月28日、第2期として再び現地に戻る。9月より活動開始。
- 荒川康司・美千子夫妻  
(日本福音キリスト教会連合佐倉キリスト教会)  
グアム邦人伝道として、1994年 5月出発。6月19日(日)より、リーベンゼラ・ゲストハウスにて礼拝開始。
- 木島正敏・浩子夫妻  
(日本福音キリスト教会連合本郷台キリスト教会)  
ロシア少数民族ツューバ族への重荷が与えられ、祈り続けてきた中で準備中。

II これからの計画について

リーベンゼラ世界宣教会は、リーベンゼラ・ミッション・インターナショナル(ドイツのバートリーベルツェルに本部のメンバーの一員として活動してい

る。

これからも協力を深めながら、リーベンゼラ世界宣教会としての働きの拡充をはかってゆきたいと願っています。以下のことを覚えてお祈りください。

- ① 宣教師の掘り起こしのための啓蒙活動。そのために宣教大会の開催、宣教師の導きを求めている兄弟への情報提供、志願者へのガイダンスを作る、機関誌「声(VOICE)」の充実、などを行う
- ② 宣教師の支援態勢の拡充をはかる。
- ③ 事務所体制の整備。

南 米 宣 教 会

I 派 遣 の 現 状

- 中田智之・宣子夫妻  
(キリスト教朝顔教会)  
1971年よりブラジルへ。サンパウロのルージラモス教会への協力から、ゴイアニヤ、ペロホリゾンテ、アマゾンのマナウスなどで開拓と教会建設に従事。  
現在マナウスで、教会の伝道に協力しつつ「神を愛し、人を愛し、自然を愛する」をモットーとした「日伯小中等学校」の建設に力を注いでいる。
- 佐藤浩之・文代夫妻

(麻溝台キリスト教会)

1976年よりブラジルへ。初期ドルージュラモス教会の牧師として、伝道・牧会・会堂新築等に協力。続いてガルーリヨスの開拓と教会形成、更に最近は、近郊オザスコの開拓にも着手している。

大都市に隣接する地理的な面から、超教派の交わりの中でも奉仕することが多い。

南米宣教会は、当初より現地の福音的教会と協力する方針でやってきて、比較的、教会の引継もスムーズになされてきたのではないかと思っている。

しかし、今日多くの日系人ブラジル人が、日本に働きに来ていることから分かるように、現地の経済的状況から、日系諸教会も試みの中にある。

日伯小中等学校は、小学校がアマゾンに建設された学校として注目を浴びてはいるものの、子どもたちの成長に伴う中等科の設備のためには、困難に直面しているので、祈りに覚えていただきたい。

II 将来に向けて

まず働き人の後継者が起こされること。ここ数年の間(そして現在も)、多くの若い方々がボランティアをして、マナウスやガルーリヨスで奉仕して下さった。その中から神学校に進ん

だん々もいる。

異文化生活に触れ、言語に馴れ、そして聖書に親しんでいるこうした人々が、続けて重荷を覚え、立ち上がってくれることが望まれる。

現地教会との「協力」と言っても、「開拓」ひとつ取り上げても、意識と方法の違いが見えてくる。また日本語教育や幼児保育など、幅広い求めもある。謙虚に、祈りつつ、教えられつつ、主にある協力を根付かせてゆきたい。

## 日本福音自由教会

(海外宣教委員会)

### I 現在の宣教師派遣状況

日本福音自由教会海外宣教委員会は、現在2人の宣教師を派遣しています。

#### ● 横内澄江宣教師 (シンガポール)

先生は今年5月17日、病弱のお母様を見舞うために緊急一時帰国をしましたが、ご本人が腹部に痛みを覚えて発熱されて、20日になっても治まらない腹痛のため、診療所を訪れなさいました。診察を受けた結果、腫瘍の疑いが濃く、そのまま入院と言われました。埼玉県ガン・センターで専門医に診ていただきましたが、肝臓癌と告知されなさいました。現在は同ガン・センターにて入院治療を受けております。

皆さまのお祈りに心から感謝申し上げます。人間の力に制限されない神のみ力によって先生が癒され、全てのことが福音宣教のために益となり、神の栄光が現れるようにお祈りください。

30年にわたる働きの実実は多岐にわたっており、シンガポール、マレーシアの福音自由教会との協力による実実はもとより、日本人への伝道においても豊かに用いられて参りました。

なお、先生はシンガポールでの働きを続けることを断念されて、現地の住居、及び、所持品を8月に引き上げました。先生に代わる器が起こされることを祈り求めています。

#### ● 石田恵理宣教師 (アメリカ邦人伝道)

今年の6月19日に派遣式を行い、アメリカ福音自由教会と協力して、ロスアンゼルス市郊外のトーランスで邦人伝道を行います。これは以前から米国福音自由教会から要望されていた働きで、今年それが実現されたわけです。石田師はホノルルとシアトルで在米日本人伝道の訓練を受け、10月からトーランスに入ります。

### II 将来のヴィジョン

自由福音自由教会教会連盟(同盟福音基督教会、日本福音自由教会協議会、日本聖契キリスト教団、日本聖約キリスト教団)理事会において、近い将来「世界宣教局」を発足させ、団体の海外宣教を一本化していくことが決議され、それぞれの団

体総会で承認されました。

共通の霊的遺産を共有する群として、世界宣教のヴィジョンを確認し、大宣教命令への献身を明らかにしています。「世界宣教局」が発足すれば、宣教地も、フィリピン、シンガポール、ブラジル、北米と広がり、ゆくゆくアフリカ、インド等も含む、世界的なものに発展してゆくことを願っています。現役の宣教師に加えて、新しい宣教師候補も続々と起こされて訓練されてゆく必要があります。4団体の理解と霊的一致のために何よりもお祈りいただければ幸いです。

## 日本ホーリネス教団海外宣教局

### I 現在の派遣状況

日本ホーリネス教団海外宣教局として、具体的には次の宣教師の派遣と支援を行っています。

#### ● エノブレ・ペドロ・悦子宣教師(フィリピン)

ミンダナオ島ダバオにおける開拓伝道をしています。イスラム、カトリックの接点のような場所での教会建設ですが、祝福のうちに教会が形成されつつあります。

毎年、日本から宣教ツアーも訪問。継続した支援が続けられています。

#### ● 大前信夫・みどり宣教師 (ブラジル)

ロンドリーナ市にあるブラジ



ル福音ホーリネス教団の教会を牧会。教会建設に当たっています。ブラジル日系人伝道がその主な働きです。1、2世から3、4世の世代へと信仰の継承が課題です。

● 木下理恵子宣教師(台湾)

国際福音宣教会を通して、台北市にてホームレス中毒者への伝道に当たっています(詳細は、前号のOMF日本委員会報告を参照のこと)。

● 劉善枝宣教師(日本)

国際福音宣教会を通し、国内でご主人の劉東源師と共に在日中国人伝道を、学生伝道の方面から当たっています。

● その他

在日南米日系人伝道のために

来日している神野信治・ラケル宣教師夫妻への支援。

かつて宣教師を遣わしていた台湾東部にある原住民族(山地族)聖教会への継続支援、宣教ツアー派遣がなされています。

II 将来のビジョン

海外宣教局として、次のようなことに取り組んでいます。

- ① 海外(世界)宣教への意識の高揚。
- ② 海外での働き、必要の調査。
- ③ 宣教師の発掘、育成、派遣。
- ④ 宣教師支援と財源の確保。
- ⑤ 海外の関係教会との交流、

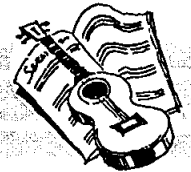
支援

⑥ 関係宣教団体であるOMSIとの協力。

⑦ 在日外国人伝道の推進。

一教団の中の海外宣教局の働きとして、まだまだ「啓蒙段階」と言えます。しかし、すでに開始されているフィリピンの働きのための後継者の育成や、更に、海外の必要に応じた宣教師派遣について検討しつつ、世界宣教に貢献できることを祈っています。

具体的には、教団全体のビジョンとして、2000年までに10名の宣教師、宣教師候補を得ることを目標としています。お祈りください。



J O M A 役員会

日時: 1994/9/21 (水)

場所: お茶の水PBA会議室

出席: J O M A - 森正義師、

岩崎喜太男氏、

平位全一師

J E A - 稲垣博史師

P B A - 中川信義氏

デヴォーション: 欠席の谷下信

之師に代わって、平位

師。ピリピ 1:3-12

議事:

A 前回議事録承認

B J E A - 稲垣師から、別

紙に従って、J E A 国際委

員会とJ O M A との今後の

協力関係について聞き、E

F A M C - M K 教育スタ

ディー・ユニットのコーディ

ネーターとして、ウイクリフの福田崇師を推薦する。

C [J O M A をご存じですか] - 紹介パンフレット

・A 5 サイズで

・2000部印刷のこと

D M K に関するアンケートの実施について、M K の範囲、目的、アンケート内容をもう少し絞って検討す。

E '96年・J O M A 25周年記念大会について。

・各団体の日程調整のこと。

・内容: 宣教大会、セミナー、実務者懇談会など。

F 本年度の宣教セミナーについては、会長の森師が、小助川師に接触して、東北

宣教大会の後援、という形で可能かを探る。。

G J O M A 通信: 原稿が集まりつつある。

H 新加盟申し込みについて。

I 次回役員会日程: 11/7

(月) p.m. 1:30--3:30

J 古山師、横内宣教師、荒川宣教師、P B A の働き、A C C '94 などのために祈って終わる(文責・平位)。

【編集後記】

お忙しい中から、それぞれ、講演の纏め、また、各宣教団体の活動紹介文を有り難うございました(PZH)。